

金沢市立兼六小学校  
平成30年度 学力向上の取組（3学期）

1 研究主題

自ら考え、ともに学びを高め合う子の育成～豊かな対話を通して～

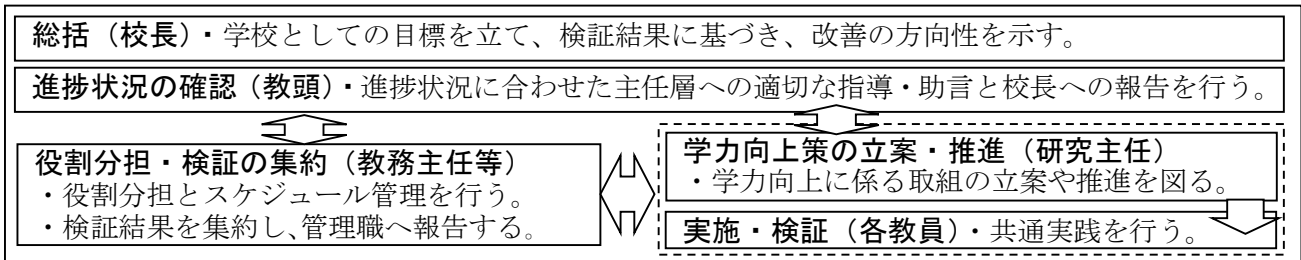
2 現状・課題（評価問題の結果、平成30年度学力分析シート等から）

(1) 児童生徒の現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語・算数ともに市平均正答率を上回っている。国語・算数ともに4年生の時の県学力学習状況調査では、県と比較してマイナスだったが、今年の市との比較はプラスに転じた。</li> <li>・算数<sup>1</sup>－(2)面積が約150cm<sup>2</sup>のものを選ぶ問題では正答率が18.6%で市の正答率と比べると－7.3ポイントとなっており、量感に課題がある。</li> <li>・国語<sup>2</sup>－(2)の平均正答率が42.3%で、複数の資料を基に、目的や意図に応じて条件に合わせて書くことは全国学力・学習状況調査と同様に依然として課題が見られる。</li> <li>・12月の児童アンケート「考えを広げたり深めたりできましたか」の質問の肯定的な回答の割合は81.4%で7月より4ポイント下回っているが、「1 当てはまる」と回答した割合は56%で研究主題及び副題にある「豊かな対話」ができるようになってきていると考えられる。</li> </ul>
(2) 指導の現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視点を明確にした対話は「広げよう」「比べよう」の使用率が高く、70%を超えていた。その他の視点は伸びが小さかったが、ほかの視点を考えて取り組んだ学年があった。</li> <li>・ふり返りステップを使ってのふり返りは75%の児童ができていて指標を達成している。</li> </ul>

3 重点的に行う取組と検証 ※2学期と変更した箇所は「MSゴシック体」にする

		授業で行う取組		授業以外で行う取組	
		取組①	取組②	取組①	取組②
重点的に行う取組		「自分の考えを伝えます」では、「話し合おう兼六」シートを使って話し合いの視点を共有して話し合う。話し合いの視点をいろいろ取り入れて、よいものを残していく。	「『わかった』『できた』をまとめます」ではふりかえりステップ4シートを使用し、どのように授業を振り返って次につなげるかを児童と共有する。授業に合うシートを適宜作る。	朝学習で、毎週火曜日に「計算兼六号」表に従って学年共通の計算問題に取り組ませる。実態から問題数や時間を精選する。	朝学習で隔週木曜日に読売ワークシートか言語プリントに取り組ませる。「書くこと」に関する設問が入っているものを重点的に選ぶ。
	検証の方法と指標	<b>方法</b> チェックシートで視点・ツールを書く。 <b>指標</b> 使用の視点80%	<b>方法</b> 月一回以上のノートチェック <b>指標</b> ステップが学年・授業に合うもの使用80%	<b>方法</b> 毎週一回児童とでき具合を共有 <b>指標</b> 月に4枚	<b>方法</b> 隔週で一回点数をシートに書く <b>指標</b> 月に2回
	児童生徒の状況	<b>方法</b> 挙手・質問紙で確認 <b>指標</b> 肯定的な評価が80%以上	<b>方法</b> ノートで確認する <b>指標</b> 学年に合うステップで書けている児童75%以上	<b>方法</b> 4回チャレンジする <b>指標</b> 90点以上が80%以上	<b>方法</b> 15分で一枚 <b>指標</b> 100点が70%

#### 4 年間計画



月	PDCA	授業で行う取組	研究授業	授業以外で行う取組
1月	計画 実践	<p>研究主任が学力向上策を立案する。研究主任の提案を受け、全教員が具体的な取組について共通理解する。</p> <p>全教員が話し合いの視点をはっきりさせた対話をさせる。また、ふり返りの時間をしっかりと確保し、学年に応じたステップを使ってふり返りをさせる。</p>	小林教諭	<p>研究主任が学力向上策を立案する。</p> <p>学年会で課題が見られる内容の改善や定着に向けて、適切なプリント集、ワークシートを選ぶ。</p> <p>全教員が朝学習で児童に読売ワークシートと基礎計算プリントに取り組みさせる。</p>
2月	改善	<p>全教員が学年会で指導の状況を確認する。チェックシートに記録をして改善点を話し合う。</p> <p>学年会で今年度の研究についてふり返り、来年度の研究について考える。</p> <p>教務主任が全体会を設定し、来年度の研究について話し合う時間を設ける。</p>		<p>全教員がきめ細かな評価を行う。（解説を行う）</p>
3月	検証	<p>研究主任と教務主任が指導の状況を集約し、学年間差、教員間差を確認する。</p> <p>学年末テスト「学力向上の取組（3学期）」の検証の機会とする。</p> <p>研究主任が指導の状況及び児童の状況についての達成状況をまとめる。</p> <p>校長・教頭・教務主任・研究主任が1年間の成果と課題を整理し、次年度の方向性を示す。</p>		<p>学年で学習プリント集、ワークシートの活用状況を把握するとともに、学年会で児童の状況について把握する。</p> <p>校長・教頭・教務主任・研究主任が1年間の成果と課題を整理する。</p> <p>学年会で学年末・学年始めの宿題について協議・検討する。</p> <p>研究主任が各学年の宿題を把握する。</p>

平成31年4月以降の下記の内容について、加除修正する必要はない。

4月～	「全国学力・学習状況調査」「県基礎学力調査」「中学校1年生学習到達度確認問題」を「学力向上の取組（3学期）」の検証の機会とする。
-----	--